

「東京」から早3年がたち、この夏、花の都パリでオリンピック、パラリンピックが開かれる。コロナ禍が覆った東京と違って、パリでは観客の声援が各国・地域のアスリートを奮い立たせるだろう。

両大会に出場する中央大学の現役生、卒業生は7月4日時点で17人と、東京の14人を上回る。表彰台、入賞、自己記録更新など目標は異なっても、いずれの選手も体調をしっかりと整えて本番を迎え、悔いなく、不利なく、全力を尽くして競技に挑んでほしいと願っている。

札幌冬季五輪(1972年)に出場したスピードスケートの元選手を、記者時代に取材したことがあった。当時2種目の日本記録を持つ第一人者だった元スケーターは「スタートラインの氷の感触は、何年たっても足の裏に残っている」という言葉で、競技人生の集大成となった五輪での緊張感を振り返った。

一方で、さまざまな競技、種目で「世界」を目指す今の中大生を取材して、「五輪は幼い頃からの夢の舞台」「究極の目標は五輪でのメダル獲得」といった熱い思いを幾度も耳にしてきた。

五輪はいつの時代も、今も、アスリートにとってやはり特別な舞台だ。スポーツの祭典の「4年に一度」という時間の隔たりにどこか切なさを覚え、「五輪の借りは五輪でしか返せない」という言葉からは、競技と真摯に向き合う厳しさを思う。

先の元スケーターは、海外での試合経験も豊富で、「精神も肉体も大きな大会を数こなすことで培われた。何事も積み重ねです」とも語った。札幌の表彰台には立てなかったが、「スタートラインで雑念の一切ない無の心境になれた。納得の滑りをできたことが最高の喜びでした」と回想した。

(編集長 北村 豊)

[STAFF]

■取材協力：学事部、各学部事務室、大学院事務室、学生部、ボランティアセンター、中央図書館、国際センター、入学センター、キャリアセンター、校友会、経理研究所、学生会ほか

■写真提供&協力：「中大スポーツ」新聞部

■学生記者：近藤陽太(経済4)、堀山泰瞬(商4)、島田莉帆(文4)、影原風音(文4)、海老澤英奈(文4)、倉塚凜々子(国際経営4)、白井美有(国際経営4)、谷井花蓮(総合政策4)、大山凜子(法4)、高橋璃々(経済3)、合志瑠夏(経済3)、酒井優実(商3)、吉田未来(理工3)、三浦菜々花(国際経営3)、鈴木萌結(国際経営3)、北村結(総合政策3)、小西結音(総合政策3)、金岡千聖(商2)、池田さくら(文2)、高橋来佳(文2)、木村結(法2)、松岡響紀(経済1)、渡木彩文(文1)=順不同

■制作協力：株式会社トリッド

**Web版
「HAKUMON Chuo」は
こちらから閲覧
できます。**




**NEXT
ISSUE**

「HAKUMON Chuo」2024 秋冬号
No.283 11月28日発行予定

2024 夏号 No.282
2024(令和6)年7月17日発行

発行：中央大学広報室
〒192-0393
東京都八王子市東中野 742-1



**“学生記者”に
なりませんか？**

Would you be
a student reporter?



(申し込み・問い合わせ)
中央大学広報室
「HAKUMON Chuo」編集担当
E-mail: hc-grp@g.chuo-u.ac.jp

**「HAKUMON Chuo」は
中大生が取材・編集する大学広報誌です。
現在、学部在学学生を対象に学生記者を募集しています。**

メリット
1

元新聞記者のプロや先輩の学生記者に、取材方法・原稿の書き方や、添削指導などを受けることができます。将来どんなキャリアを目指すにも文章力は重要です！

メリット
2

取材を通して、さまざまな人に出会うことができます。出会いの数ほど思い出ができることでしょう。

メリット
3

記者活動を通して、コミュニケーション能力など社会に出て活躍するための基礎力を身につけることができます。



プロ野球ドラフト会議で指名された硬式野球部選手の記者会見＝2023年10月26日、多摩キャンパス